

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0172300154		
法人名	有限会社 老古美興産		
事業所名	グループホーム「そよかぜ」岩内		
所在地	岩内郡岩内町字栄2番地10 (電話) 0135-62-1100		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年11月16日	評価確定日	平成19年11月27日

【情報提供票より】 (19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費15,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護 1	2	要介護 2	3
要介護 3	4	要介護 4	
要介護 5		要支援 2	
年齢	平均 86 歳	最低 77 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北海道社会事業協会岩内病院 吉田歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「そよかぜ」岩内は、国道に面した商店街の店舗の一部を改造したホームで、店舗の裏の1階部分を玄関ホールと事務所、会議室とし、2階部分を居住空間としている。共有空間、居室ともスペースがたっぷりゆったり落ち着いた雰囲気である。階段には電動昇降機も設置されている。創設者は建設会社を営み、歳を重ねて、高齢者の福祉を通じて地元へ貢献したいとの発念から当施設を創設するに至った。施設長は福祉行政と現場の経験が豊かであり、管理職も計画作成担当者も認知症の介護歴8年というベテランぞろいである。職員は明るく気さくで、互いの人間関係が親密で、離職がほとんどないため、利用者とも和やかな馴染みの関係が築かれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域に向けての啓発・広報活動、活動意欲を高める物品の配置、接遇の際の方言を含んだ言葉遣い、献立の栄養士によるチェック、地域との交流活性化を指摘されたが、いずれも真摯に取り組んで改善がなされている。玄関付近段差や手すりの設置も指摘されたが、構造上、にわかには改善困難である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員の会議で取り上げられ、項目ごとに討論されて作り上げられた。項目の趣旨や記述様式の理解に一部混乱や戸惑いもあったが、理解された部分については日ごろの介護を見直すよい機会として前向きに受け止められ、各職員のサービス改善にも生かされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政の対応が遅れていたこともあって、開催されていなかったが、先ごろようやく第1回の開催にこぎつけた。メンバーは施設側のほかに町の職員、町会議員、民生児童委員、家族代表で構成されている。施設の趣旨説明、活動報告、地域の行事などが議題で、意見も出されたが、初回ということもあり、取り組みに結びつくようなものではなかった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情記入用紙と投函箱を設置しているほか、来訪時に詳しい話を聞いて、率直な意見を聞きだすように心がけている。意見、要望のたぐいがあれば職員の会議で取り上げ、問題点と対応を検討し、家族に報告すると共に運営に反映させ、記録に残している。多くは希望の範囲で、苦情というほどに至るものはまれである。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保守的な土地柄で、住民の受け入れの難しいこともあって、思うように進んでいないが、最近ようやく町内会に加入できた。老人会は抵抗が厳しく、いまだ加入できていないが、いずれ加入することも今後の課題である。お祭、敬老会、ごみ拾いなどの地域の行事には積極的に参加している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた町、地域で安らぎと喜びのある日々を、その人らしく過ごすことを支援する、という内容の、独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や居間に掲げられ、運営規定にも明記されて周知が図られている。職員会議や申し送りの時には必ず理念に触れるようにしており、職員はこれを意識して日々の介護をチェックしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保守的な土地柄で、住民の受け入れの難しいこともあって、思うように進んでいないが、最近ようやく町内会に加入できた。老人会は抵抗が厳しく、いまだ加入できていないが、いずれ加入することも今後の課題である。お祭、敬老会、ごみ拾いなどの地域の行事には積極的に参加している。	○	時間をかけて理解を求めつつ、地域住民として老人会に加入する努力を続けることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員の会議で取り上げられ、項目ごとに討論されて作り上げられた。項目の趣旨や記述様式の理解に一部混乱や戸惑いもあったが、理解された部分については日ごろの介護を見直すよい機会として前向きに受け止められ、各職員のサービス改善にも生かされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	先ごろようやく第1回の開催にこぎつけた。施設側のほかに町の職員、町会議員、民生児童委員、家族代表で構成されている。施設の趣旨説明、活動報告などが議題で、意見も出されたが、初回ということもあり、取り組みに結びつくようなものではなかった。	○	今後さらに内容を充実させ、特に評価を主要議題の一つとして取り上げるよう、期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場には施設側から積極的に出かけて、センター方式によるケアプランの立て方、生活保護者の扱いなどについて相談し、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「そよかぜだより」を発行し、必要に応じて個人別に便りを出している。ヒヤリ・ハットの事例など、事あるごとにこまめに電話連絡している。来訪時には詳しく報告し、個人記録も見せている。金銭出納記録は毎月送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置しているほか、来訪時に詳しい話を聞いて、率直な意見を聞きだすように心がけている。意見、要望のたぐいがあれば職員の会議で取り上げ、問題点と対応を検討し、家族に報告すると共に記録に残し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間の人間関係が良好で、職場としての雰囲気も良いため、異動はほとんどない。新入職員が入ったときは先輩職員がきめ細かに指導、アドバイスをして、利用者との早期の馴染みの形成に努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者、職員の教育に熱心であり、機会は少ないが、グループホーム協議会の道、後志管内、札幌など各段階のスタッフ研修、実践報告会などに交代で参加させている。参加者は、報告会で報告し、知識を職員間で共有する手立てが行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内に他には同業者がなく、近隣市町村にも少ないため、交流の機会は乏しいが、研修の機会などに遠隔の同業者とも随時交流に努めている。近く、近隣市町村の同業者で交流組織を立ち上げるよう、準備中である。	○	近隣市町村の同業者に積極的に働きかけて、交流の組織をつくり、職員の相互訪問研修にも発展させるよう、期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始の当初は職員が接触を密にし、話しかけ、他の利用者との間に入って仲を取り持つなどの配慮をしている。また、家族にも協力してもらい、面回数を多くしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で職員、利用者が役割分担し、お互いに協力し合っている。山菜の採り方、処理の仕方、魚のさばき方などは利用者の指導を受け、生活の知恵を学んでいる。礼儀作法やしつけでも利用者の注意を受けて正すことがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を採用してアセスメントを行い、24時間シートを作成することによって利用者の気持がよく見えるようになってきた。些細な意思表示にも注意を払い、聞き逃さないようにして思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人の要望を聴き職員会議で意見を出し合い、利用者が自分らしく暮らせるような介護計画を作成している。作成した介護計画は家族の承認を得、説明可能な利用者には、担当職員が説明を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常3ヶ月ごとに見直しを行い、利用者の状態に変化が見られたら、期間にかかわらず介護計画の見直しを行っている。入所間もない利用者については、1ヶ月で見直しを行っている。	○	利用者の状態変化にかかわらず、月1回程度は新鮮な目で介護計画の見直しを行うことを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院や往診の支援を行っている。管理者は生協の認知症勉強会の講師を引き受けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞きながら、歯科や内科等、利用者のかかりつけ医への通院介助を行っている。協力医とは、緊急時も連絡が取れるように関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や本人の意見を尊重し、医師に相談しながら速やかな対応をしている。ケアプランには、家族や本人の希望を記入し、医師の指示のもと事業所として対応し得る最大のケアについて方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	方言がきつく聞こえたりする事もあるので、職員同士で注意しあいながら言葉がけには気をつけている。個人記録簿等書類は、鍵をかけた場所に保管している。	○	現在1冊になっている面会記録簿を、利用者一人ひとりの個別記録にされることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースで過ごせるように、朝食も個人のペースで食べてもらうようにしている。買い物や散歩に出かける、自宅へ帰るなどの希望に出来るだけ柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調や好みに合わせてメニューや調理方法を考え、楽しく食事が出来るようにしている。食事の準備や片付けも利用者と職員が行い、食事と同じテーブルを囲み、楽しく食事が出来る雰囲気作りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は受診日を外して1日おきに行っているが、本人の都合や希望に合わせて随時入浴出来るようにし、朝からの入浴にも対応している。入浴を拒む利用者には数人の職員で声かけをして、スムーズに入浴出来るように誘導を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	琴や絵画、塗り絵、裁縫等利用者が得意分野で力を発揮して楽しく生活できるようにしている。地域のお祭りや敬老の日の行事にも、職員と利用者が一緒に参加して楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望に応じて外出したり、職員と利用者が1対1で美術館や外食、喫茶店等に行き、利用者一人ひとりが楽しめるように柔軟に対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることなく、鈴の付いた玉のれんを飾り、外出しようとする利用者の動きを察知して、安全面に配慮しながら職員がさりげなく同行し、利用者が目的を達成出来るように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回利用者と共に火災を想定しての避難訓練を行っている。月1回消防設備の点検を行い、2カ所の非常口も避難訓練の時利用して訓練を行っている。	○	今後は運営推進会議等で呼びかけて、近隣の方の災害時協力体制をさらに整えることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取状況を毎日記録し、職員全員が情報を共有している。献立を町の保健所と役場の栄養士に見てもらったり、職員が栄養士の講習会に参加したりして専門的アドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマスツリーやお正月のお飾り、ひな人形等を飾ったり、ホールには季節の花を飾り、利用者が季節感や生活感を常に感じ取れるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇、使用していた家具等を持ってきてもらい、利用者が居心地よく生活出来るように配慮している。利用者が描いた絵や塗り絵等が飾られ、一人ひとり個性のある居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。